

岡崎混声合唱団 岡崎高校コーラス部

第35回 定期演奏会

2013年委嘱作品／初演

千原 英喜×草野 心平

混声合唱のための「**活火山群**」

信長 貴富×木島 始

混声合唱組曲『ねがいごと』より「**厄払いの唄**」

指揮：近藤 恵子 演奏：岡崎混声合唱団・岡崎高校コーラス部

三善 晃×谷川 俊太郎

混声合唱組曲『**五つの願い**』

指揮：近藤 恵子 演奏：岡崎混声合唱団

三善 晃×谷川 俊太郎

混声合唱とギターのための組曲

『**クレーの絵本 第1集**』

指揮：小宮 実桜・出口 徹弥 ギター：堀尾 和矢 演奏：岡崎高校コーラス部

企画ステージ 《**宇宙旅行**》

構成：岩瀬 恵子 演奏：岡崎混声合唱団・岡崎高校コーラス部

2014年3月22日(土) 14:00 開演 [13:15 開場]

愛知県芸術劇場コンサートホール

入場料【全指定席】S席／2,000円 A席／1,000円 B席／500円 愛知芸術文化センター内プレイガイド ☎052-972-0430
チケットぴあ ☎0570-02-9999 <http://pia.jp/t> [Pコード=219-231] ※チケットぴあスポット・セブンイレブン・サークルK・サンクスでも直接お買い求め頂けます。

©合唱団事務局：中根俊樹 TEL/FAX 0564-51-4060 ©車椅子席をご希望の方は、合唱団事務局までお問い合わせ下さい。 ※未就学児童のご入場はお断りいたしております。
©後援：愛知県 岡崎市 岡崎市教育委員会 岡崎文化協会 愛知県合唱連盟 朝日新聞社 ©主催：岡崎混声合唱団 <http://okakon.sunnyday.jp/>



新しい出発としての演奏会

さとこ
近藤 恵子

一昨年の第33回定期演奏会で岡崎高校コーラス部(以下岡コ)が「方丈記」を演奏した際、幸運にもその作曲者 千原英喜先生に演奏をお聴き頂くことができた。生徒の指揮による一所懸命な演奏を暖かく受け入れて下さり、励ましと賛辞も頂くことができた。そんなご縁で新曲の委嘱も受けてくださり、昨年春に、物凄い曲が届いた。詩は草野心平氏の「活火山群」の<1>。演奏時間が5分以内ということで、NHKコンクールの自由曲として岡コが挑戦することになった。活火山群の詩は<1>と<2>に分かれていて「<2>が岡崎混声さんへの新作になればちょうどいいのですが」と先生自身も述べておられたのだが、<1>にあまりにもエネルギーを投入され過ぎて、体調を崩してしまわれたとのこと。もしかしたら来年、あらためて<1><2>を初演させて頂くことになるかもしれない。(活火山群を自由曲として歌い、岡コは今年もNHKコンクールの全国大会に出場することができた。一重に千原先生のお陰である。)

さて2013年の秋は台風襲来だけでなく、辛い事件が続いた。まず中部大会では、岡コは金賞・全国代表を獲得したものの、岡混がダメ金となり、10年ぶりに全国大会出場ならずという大事件。そして10月4日、作曲家の三善先生がお亡くなりになった。この日は私の誕生日で、両団それぞれに心をこめたお祝いをしてくれて、「ああ有難いなあ、みんなの気持ちに伝えないと…」と自分を鼓舞していた矢先に訃報をきいた。三善先生は我々にとって父でもあり神でもある特別な存在なのだ。我々はずっと三善先生の曲によって育てられたと言っても過言ではない。行けども行けども終りのない合唱の深淵さに気付かされ、必死であがくとあがいた分だけ震える感動が待っていることも教えて頂いた。私と両団宛に頂いたお手紙や FAX は音楽室に掲示したり印刷して全員に配った。一人一人が直接先生からのメッセージとして受け取ってくれるように。

鉛のような喪失感は、私だけでなく岡混の団員全員がかみしめたと思う。

岡混のコンクール自由曲はシェーンベルク作曲の「地上の平和」で、建設途中ではあったが将来図が見えかけていた時、私の詰め甘さが曲の構成の甘さと粗さに繋がることとなった。声の鍛錬もまだまだ不足していた。驕りがあった？と言われればそうかもしれない。だからこそ、この35回定演を新しい出発の第一歩にしなければならない。出直すためには「地上の平和」をフリーズし、熟成させることにし、今回は三善先生の「五つの願い」に帰ることにした。岡コのステージも昨年夏に「クレーの絵本」に決めていた。期せずして前半は三善先生のかなり昔の作品を歌うこととなった。

そして今回の千原先生の委嘱作品。千原先生は、我々を「活火山のように莫大なエネルギーを内包している合唱団」と見込んでこの曲を書いてくださったと思いたい。そのお気持ちに伝えるために、また遠くに逝かれた三善先生に届けるためにも、心の声を燃やし噴出させて、我々らしい歌を生き生きと響かせたい。



さとこ
指揮 / 近藤 恵子

1968年、新任音楽教諭として岡崎高校に着任以来、コーラス部を全国トップレベルの合唱団へと育てる。2000年より開催されている「World Choir Games(合唱オリンピック)」では青年混声部門日本代表として岡崎高校コーラス部を率いて出場、5大会連続の金メダル、3度のワールドチャンピオンに輝き、優秀指揮者に与えられる Conductors-Prize を受賞。2011年に開催された「Busan Choral Festival & Competition 2011(釜山合唱世界大会)」でも岡崎高校コーラス部

を混声部門優勝に導き、全部門を通じてのベストコンダクター賞を受賞した。「全日本合唱コンクール全国大会」では、2006年に岡崎混声合唱団を、2008年に岡崎高校コーラス部を、部門1位である文部科学大臣賞に導いている。またオーケストラの合唱指揮指導者としても、(故)佐藤功太郎、(故)若杉弘、(故)ゲルハルト・ボッセ、ヤン・クレンツ、小林研一郎、尾高忠明、ティエリー・フィッシャー、浮ヶ谷孝夫各氏からの信頼も厚く数多くの指導依頼を受けており、2014年7月12日に開催される名古屋フィルハーモニー交響楽団演奏会では、小林研一郎指揮によるマーラー交響曲第2番「復活」の合唱指揮指導(合唱:岡崎混声合唱団・岡崎高校コーラス部)を務めている。ソリストとしても、名古屋二期会会員時代はソリサイタルやオペラ活動を活発に行い、歌唱力・演技力ともに高い評価を得ている。豊川コーラアカデミー、豊川で第九を歌う会、三河市民合唱クラブの常任指揮者としても活躍。声楽を瀬山詠子、(故)R・リッラの各氏に師事。豊橋市文化振興特別賞、豊川市文化奨励賞、岡崎市教育文化賞、愛知県教科教育功労賞、中日教育賞を受賞。現在岡崎高校非常勤講師。

岡崎混声合唱団

1979年、前身である「岡崎高校コーラス部 OB 合唱団」を結成。以来同校教諭、近藤恵子を常任指揮者として合唱活動を継続し、1999年に団名を「岡崎混声合唱団」に改称、2010年に創立30周年を迎えた。全日本合唱コンクールでは全国大会の常連として活躍し、通算11回の出場、2006年には文部科学大臣賞を受賞している。他にも名古屋フィルハーモニー交響楽団やセントラル愛知交響楽団との協演からオペラ公演への出演、個々のメンバーによるアカペラライブまで、様々なパフォーマンスと幅広い活動を通じ、地域の音楽文化の向上を目指している。2014年7月12日には名古屋フィルハーモニー交響楽団演奏会への出演を予定。平成17年度愛知県芸術文化選奨文化賞受賞。

愛知県立岡崎高等学校コーラス部

1949年結成。1968年近藤恵子教諭着任の翌年、創部以降初めてNHK全国学校音楽コンクール県大会1位、東海北陸大会で3位に入賞した。通算20回目の全国大会に出場した今年度は優良賞を受賞。また全日本合唱コンクールでは1993年以降通算18回の全国大会出場を果たし、2008年には文部科学大臣賞を受賞、今年度も金賞を受賞した。他にも海外での活躍として、World Choir Games(合唱オリンピック)青年混声部門に日本代表として出場し、2000年の開催以来5大会連続の金メダル、通算3回の最優秀賞を受賞。2011年に行われた Busan Choral Festival & Competition 2011(釜山合唱世界大会)でも混声部門優勝の栄冠を獲得している。これまでに愛知県県知事賞を3度、愛知県芸術文化選奨文化奨励賞を3度受賞。